

**平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）
実績報告書（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（B）」**

平成30年10月30日

独立行政法人 日本学術振興会理事長 殿

課題番号	1	8	H	P	0	0	2	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---

主催団体 所 在 地	〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東錫屋町167 ビューフォート五条烏丸3階		
主 催 団 体 名	公益社団法人 日本放射線技術学会	代表者職名	代表理事
		代表者氏名	小倉 明夫 印

平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）「**研究成果公開発表（B）**」について、下記のとおり補助事業の実績を報告します。

シホジウム・ 学術講演会等名	平成30年度市民公開講座 「乳がんの診断から治療まで～放射線と上手に付き合うために～」		
実施主体 (支部等)	公益社団法人 日本放射線技術学会 広報・涉外委員会	代表者職名	広報・涉外委員長
		代表者氏名	隅田 博臣
開催日	平成30年10月 6日（土）～平成30年10月 6日（土）（1日間）		
会場名	仙台国際センター 会議棟 大会議室 萩 開催地：宮城県 仙台市		
参加者数 (※ 交付申請書に記載した参加予定者数)	147人 (150人)※		

費目別収支決算表

実支出額の 使 用 内 訳	合 計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他の 収支額
	1,400,000円	117,270円	60,000円	261,870円	960,860円
交付申請書 に記載した 補 助 金 の 使 用 内 訳	合 計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他の 収支額
	1,400,000円	100,000円	10,000円	520,000円	770,000円

シンポジウム・学術講演会等の目的	<p>本団体の会員の多くは、診療放射線技師として医療現場で受診者と対話しながら放射線検査の責任者として業務にあたっており、業務終業後は、放射線を利用した検査技術の向上のため、研究・開発等を積極的に行っていている。乳がん検診の現状を考えたとき、国民が持つX線検査への漠然とした不安を払拭することは本団体の重要な使命であると自負している。</p> <p>本市民公開講座では、市民の皆さんに「放射線、被ばく、乳がんの画像検査・治療」をkey wordに情報を提供し、乳がん検診の重要性について理解を深めていただくことを目的とする。これにより、市民が持つ医療被ばくや検査に対する不要な不安を払拭し、市民が安心して乳がん検診を受ける状況となり、乳がん検診の受診率向上につながると確信している。</p>
シンポジウム・学術講演会等の概要	<p>第1部は「放射線を正しく理解しよう」として、放射線に関する基礎的な内容（概論と身の回りの利用について）を解説した。ここでは、放射線が皆様の日常生活において必要不可欠であること、そして、放射線治療の分野における放射線の重要性について具体的な例を用いて紹介した。</p> <p>第2部の「乳がんの画像検査」では、乳がんの診断から治療に至るまでを画像検査の役割や重要性について乳がん検査の最新の話題を交え解説した。乳がん検査の一つである「マンモグラフィー」において、乳腺が発達し、マンモグラフィーではがんを発見しにくい高濃度乳房についても、解説した。近年の高度な撮影技術を踏まえ、最新の乳がん検査の現状と将来の技術について話をした。また、安心して検診を受けていただくことを目的に乳がん検査における被ばくとリスクの考え方を解説した。さらに、病院では様々な画像検査がどのように利用され、そして何がわかるのか？どうして必要なのか？などの乳がん治療を支える画像検査の重要性・必要性を解説した。</p> <p>本市民公開講座は147名の方々に参加していただいた。当日は、幅広い年齢層で、かつ、性別問わず参加があった。参加者の年代は50歳代が最も多く、次に40歳代となった。20歳代以下、30歳代、60歳代、70歳代以上と参加者がおり、幅広い年代に参加いただいた。参加者は4分の3以上が宮城県からの来場だった。参加者の全体の評価として、90%程度が本公開講座に参加して良かったと回答しており、満足していただいたと考える。</p>

主催団体の事務連絡者	<p>〒 600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鎌屋町167 ビューフォート五条烏丸3階 所属・職名 公益社団法人 日本放射線技術学会・事務局長 FAX: 075-352-2556 氏名 宮高 瞳 E-mail: master@jsrt.or.jp</p>
------------	--